

古典A

date: 年 月 日 自然学園高等学校 梁川キャンパス

学習内容：漢文 基礎

学籍番号

氏名

漢文

◎漢文の形態

◇白文 漢字だけで書かれた原文 (返り点や送り仮名が無く汚れていない)

百聞不如一見

◇訓読文 白文の漢字の右下に送り仮名、左下に返り点を施し、日本語読みができるようにした文

百聞不如一見 (カタカナが送り仮名 ひらがなは読み仮名)

◇書き下し文 訓読文を漢字仮名交じりで書き改めた文

百聞は一見に如かず

※書き下し文は日本語に直した文。付属語にあたる漢字は平仮名になおす

◎訓読のきまり

漢文(白文)を訓読するために付けられた記号【返り点】の規則

▽レ点 下の文字から一つ上(すぐ上)の文字に戻る

▽一二点 「二」のついた文字が読めたら「二」へ返る

※上下点(甲乙点)も一二点と同様の規則

※返り点は、言葉のとおり「前へと返る(もどる)」のです。

先へ飛ぶことはありません。

※一二三と「三」までである場合(上中下、甲乙丙)

「二」を読めたら「二」に返り、次に「三」に返って読む

返り点は「レ」と「二」の規則だけです。「一レ」のように重ねて使われることはありませんが、難しくはありません。 ※とにかく上から順に読んでいき、返り点があったら気を付けましょう。

メモ

読み順▽①②③④⑤⑥⑦

【例】楚人有鬻盾与矛者。

書き下し文▽楚人に盾と矛とを鬻ぐ者有り。

練習

●次の□に読みの順番を示す数字を書きなさい。

Grid of boxes for reading order practice. Each box contains a character with a reading order indicator (e.g., ①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧) and a square box for the student to write the correct order number.

●次の訓読文を書き下し文にして書きなさい。

① 挙頭望山月

② 己所不欲、勿施於人。

③ 有朋自远方来、不亦乐乎。

置き字について

置き字とは漢文訓読の際、読まない文字のことです。また書き下し文にした際も書きませ

【主な置き字】

於而乎于 矣兮焉

古典A

date: 年 月 日 自然学園高等学校 梁川キャンパス

学習内容：漢文基礎 その2

学籍番号

漢詩

氏名

漢詩について

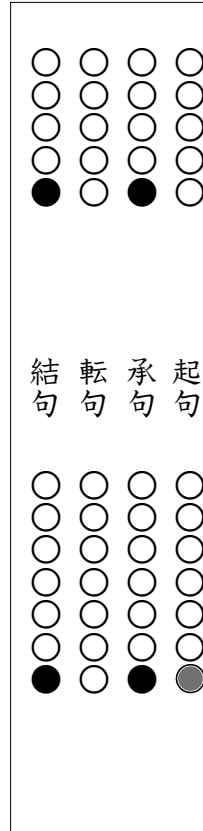
◎漢詩の種類

絶句 (四句「四行」の詩)

五言絶句 (一句が五言「五字」のもの)

七言絶句 (一句が七言「七字」のもの)

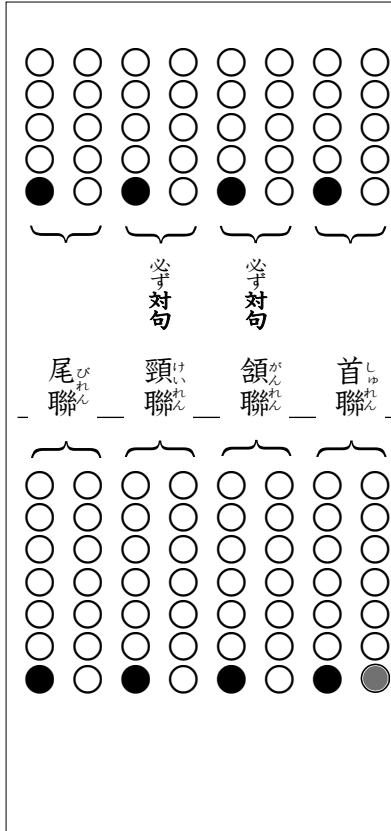
●は押韻する箇所



律詩 (八句「八行」の詩) || 四聯からなる詩

五言律詩 (一句が五言「五字」のもの)

七言律詩 (一句が七言「七字」のもの)



※規則としては、形式・押韻・対句

押韻とは

母音が同じ

同韻 (同じ響きをもつ語) の漢字を句末に用いる。

対句とは

二つの句において、相対する語句を用いて対照的に表現する技法

春曉

孟浩然

書き下し文

春眠不覚曉
處處聞啼鳥
夜來風雨聲
花落知多少

△押韻

絶句

杜甫

書き下し文

江碧鳥逾白
山青花欲然
今春看又過
何日是歸年

△押韻

△色を表す語

△対句

古典A

date: 年 月 日 自然学園高等学校 梁川キャンパス

学習内容：漢文基礎 その2

漢詩 2

学籍番号

氏名

△押韻
△対句

春望 杜甫

国破山河在，城春草木深。
感時花濺淚，恨別鳥驚心。
烽火連三月，家書抵萬金。
白頭搔更短，渾欲不勝簪。

△押韻

黄鶴樓して孟浩然の
広陵に之くを送る 李白

故人西辞黄鹤楼，烟花三月下扬州。
孤帆远影碧空尽，唯见长江天际流。

書き下し文

書き下し文

◎学習のポイント

春暁 孟浩然

・前半（起句と承句）と後半（転句と結句）の対比の妙味

絶句 杜甫

・「今春看又過」この心情の真意とは

黄鶴樓：李白

・「故人」とは

・「烟花」とは

・この詩でとらえておきたいこと

春望 杜甫

・「烽火」とは

・「家書抵万金」とは

・どんな背景（状況）

古典A

date: 年 月 日 自然学園高等学校 梁川キャンパス

学習内容：教科書P164 故事と寓話

まうぼ
孟母断機

学籍番号

氏名

孟母断機

部は置き字

孟子之少也、既学而帰。孟母方織。
 ① 問曰、「学何所至矣。」

孟子曰、「自若也。」

孟母以刀断其織。

④ 孟子懼而問其故。

孟母曰、「子之廢学、若吾断斯織也。」

夫君子学以立名、問則広知。

是以居則安寧、動則遠害。

③ 今而廢之、是不免於厮役、

而無以離於禍患也。

何以異於織績而食、中道廢而不為。

寧能衣其夫子、而長不之糧食哉。

女則廢其所食、男則墮於脩徳、

不為窃盜、則為虜役矣。」

⑤ 孟子懼、旦夕勤学不息。

師事子思、遂成天下之名儒。

孟母
孟母の母。

孟子

戦国時代の思想家。孔子の思想を發展させ、亜聖と仰がれた。

自若

以前と変わらない様子。

織

織っている布。

居

仕官・公職を務める

動

(仕官して) 活動する。

厮役

下働き。

禍患

わざわい。災難。

織績

布を織ったり、糸を紡いだりする。

夫子

夫や子ども。

虜役

「厮役」と同じ。

旦夕

朝晩。

子思

孔子の孫。

名儒

名だたる儒学者。

① a 「問ひて曰はく」とは、誰の動作か。

b その内容である「学何れの所にか至る。」とは、どのような意味か。

② ①に對し忘れた「自若たり。」とは、どのような意味か。

③ 「之」が指し示すものとは何か。

④ 「孟子懼れて」と⑤ 「孟子懼れ」同じ表記であるが、違いを探すとすればどのようなところか。

⑤

⑥ 子之廢学、若吾断斯織也。の書き下し文と訳を書きなさい。

【書き下し文】

【訳】